

政務活動（参加・実施）報告書

令和 6 年 8 月 6 日

会 派 改革フォーラム

参 加 者 牧 田 俊 之

政務活動先 (目的地)	① 兵庫県西宮市(西宮市役所) ② 愛知県岡崎市(岡崎市役所)				
開催団体等					
政務活動期間	令和 6 年 7 月 24 日(水)～7 月 26 日(金)				3 日間
政務活動項目 (名称等)	① 本庁舎周辺ウォークアブル推進事業について ② 情報教育推進事業(岡崎版 GIGA スクール)について				
政務活動参加者	牧田俊之	首藤孝治	松井雅宏	越川慶一	
					計 4 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	① 「本庁舎周辺ウォークアブル推進事業」について 西宮市は、令和元年に本庁舎周辺の公共施設が次々と更新の時期を迎える中で、本庁舎周辺エリアの空間整備の方針として 2050 年を目標年次としたビジョン策定の取り組みをスタートさせ、'ま'ちに開かれた公共建築物の整備とともに道路や公園・広場等のオープンスペースを人が中心の空間に転換し「居心地の良い」まちなかの形成を目指しています。 具体的には、本庁舎周辺の 9.7ha を国交省が推進する「居心地が良く歩きたくなるまちなか」に指定し、本庁舎前の 2 車線の道路を 1 車線にすると同時に本庁舎改築に合わせて外壁のセットバックやガラス壁で透明化を図ることにより、車中心の道路空間から人中心の道路空間への転換に着手し、今年度から市役所本庁舎前広場計画事業をすすめています。 また、整備区域内にある県立病院が後年次に他の地区に移転することを踏まえ、この跡地を都市再生特別措置法で官民連携の計画に位置付けることにより、法律・予算・税制をパッケージにして支援が受けられる制度を創設し、民間資金の誘導を促す取り組みを進めておられました。 苫小牧市においても令和 3 年に「苫小牧都市再生コンセプトプラン」を策定し、中心的な施策としてウォークアブルなまちづくりを掲げています。 この中で、苫小牧駅前を起点とし、建設中の市民文化ホール・ふるさと海岸・出光カルチャーパーク、キラキラ公園を結節点として結ぶ動線を整備する構想を描いています。				

目標年次も定められていない構想段階の計画ではありますが、今後、駅前再整備を進める上で連動した取り組みが求められると考えておりますので、この度の視察調査で学ばせていただいた知見を今後の議会議論に活かしていけるよう務めてまいりたいと考えております。

② 情報教育推進事業(岡崎版 GIGA スクール)について

岡崎市は、平成 26 年度に全中学校に Windows タブレットを生徒 4 人に 1 台を配置したことを手始めとして、平成 30 年度と令和元年度の 2 ヶ年で小中学生の一人一台端末(iPad)を配置し、岡崎版 GIGA スクールをスタートさせました。

この間の iPad の整備状況、運用状況、一人一台タブレット端末の整備に向けた工夫、タブレットの破損・不具合の発生状況と対応、児童生徒のタブレット端末の利用状況と子どもたちと教員の声などを紹介していただきました。

また、教育委員会の組織の中に GIGA スクール戦略係を設置し、職員 2 名、指導主事 2 名、アドバイザー 2 名の合計 6 名を配置して本事業を推進されておりました。更に、ヘルプデスク・ICT 支援として民間会社(6 名)に委託し、教員の質問・トラブルにも対応しているとのことでした。

苫小牧市でも令和 2 年から全小中学校の生徒一人に 1 台のタブレットを配備し、GIGA スクール構想に取り組んでおり、岡崎市と同様の取り組みも進めておりますが、苫小牧市では教室内のモニターに留まっていたところを岡崎市では学びのインターフェイスとして電子黒板を GIGA スクール構想を拡充する上での中核的な ICT 機器として位置付け、令和 4 年度から令和 6 年度までの 3 ヶ年で小学校 1 年生を除く小中学校全教室に配備して運用している点。また、タブレットの機種を試験的運用の結果を踏まえてこどもファーストの考えで Windows から iPad に変更したという点など、GIGA スクール推進体制の充実が、今後の苫小牧の GIGA スクール構想を考える上で大変参考になりました。

実際に、子どもたちが使用しているタブレットを操作し、模擬授業も体験させていただき、今後の当市の ICT 教育の強化を進める上で大変参考になった視察調査となりました。

資料名 (会派保管)

西宮市

- ・本庁舎周辺再整備ビジョン(中間報告)
- ・ウォークアブルなまちづくりとは

岡崎市

- ・GIGA スクールについて
- ・電子黒板の活用について

会派内回覧

